

## 新しい悦びの時代へ向けて

NPO法人

くだけけ会代表

和田重良

1948年小田原市生まれ  
くだけけ生活舎での共同生活（人  
生科や農作業）をとおして、青少  
年や家庭の生活にさまざまなメッ  
セージを送っている。



人生においても、教育を考えるためにも、一人一人にとって「今をどう生きるか」が大切なことであることは言うまでもありません。

過去を悔んで、また未来を憂いてばかりでは新しい時代を生み出せません。今日からイキイキと生きましょう。何歳からでも…。

## 才六回 宇宙と子どもたちの生活

宇宙観

ぼくらの住んでい  
るこの宇宙は一体ど  
こからどこまでなん  
…：こころみですね。

だろうか？とたいいての人は考えるものだと思います  
が、実は人間の頭ではまだまだ捉えることはできて  
いないのですから、とても不思議な宇宙大の所に存  
在しているのですね。不思議、不思議？？

そこで、頭で捉えるのではない「実感」の方でこ  
の宇宙の不思議を感じとってみるといいうのも楽しい  
…：こころみですね。

人類は「科学万能」に突き進んだので宇宙を完全  
に人間の思うままに支配できるとしたいのですが、  
そう簡単なものではありません。それどころか「分  
からないものばかりだ」と段々と判ってきたのです。

子どもの教育がなぜ「知に偏るか」と言うところら  
辺に問題があるのです。「分かる」というのは「分  
けて認識する」のですから、「分けられないもの」  
は認識できない、となってしまうのです。

子どもの教育

宇宙のはじまりが  
どんなものか知らな  
くたつていいし、宇

そこで、「子どもの教育」には「生活」の中で「不  
思議をあたたためる」という大切なものがあると思っ  
た。

「受験」一辺倒の「知育」から「生活」の中で「不  
思議」に向き合っていく「こころの教育」に戻して  
行かなければならないのです。

宇宙の終りがあるかどうかなんて考えなくたって、こ  
の社会に生きて行くことはできると思うでしょうけ  
ど、実は「ぼくらの住んでいる宇宙がどんな所なの  
か」を出発点とする教育と、「そんなことあどうだ  
つていい」とする教育ではまるで方向が違つてしま  
います。

なぜかと言うと人間はどうしても「自分」の正体  
を知ることがテーマになるのですから「教育」をす  
るからには、その知識が受験に役立つからというだ  
けではないことを知らなければちつとも面白くなら  
ないのです。

昔の寮生たちの話も『両手で生きる』や『心いっ  
ぱいに育て』を読み直してみるとこのことが本当に  
よく受けとれます。

その「自然回復力」が「不思議をあたたためる」宇  
宙観に基づく「生活教育」なのです。

「平和」に生きる

もう一つ重大なこ  
とを最近発見しまし  
た。

それは「平和」に生きるとか、「平和」に徹する  
とかという時のその中身です。

人類はずっとずっと「平和でありたい」と望んで  
暮らしてきました。そして、昨今は「平和教育」な  
るものもやってきました。なのに、くり返しくり返  
し暴力の応酬はなくなりません。国と国との対立、  
争い。人と人とのいがみ合い。そんなものをずっと  
ずっと続けています。

「平和」の方がいいんだということは知っています  
が、知っていたって何にも役  
に立たない知識（表面的な言  
葉）です。

自国の平和のための戦争と  
いうのが堂々たる理屈でまか  
り通るので、「集団的自衛権」  
なんてことが正当化されてい  
きます。

子どもの「いじめ」をなくしましょう、なんてこ  
とも大真面目で言ったり、やったりしています。が、  
そんなことでなくなるのなら、人類はとつづくに「絶  
対平和」を手に入れているのです。

さて、難しい話になりましたが、ぼくらの言う  
「絶対平和」：「平和」に生きるといふことの根源  
は「宇宙」の捉え方にあるのだと言いたいのです。

なんだか分からないけれど、ぼくらは皆一つの大  
きな世界の中に生きています。それが「宇宙」です。  
そこには歴然とした順序や秩序が存在していて、そ  
の理由は「不思議のかたまり」なのです。

それを知っている世界を神様や仏様の世界とした  
のでしよう。

「不思議」をあたたためていく教育はそのまま「平和」  
に徹して生きていくことになります。そこではじめ  
て、「いじめ」という決着ではない世界が受けとれ  
ます。「戦争」や「防衛」という決着ではない世界  
が受けとれます。

